

学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	新潟市立小須戸小学校
校長氏名	河野 健一

1 学校紹介

小須戸小学校は，“「愛」と「信頼」に裏付けられた教育の実践”を基本方針とし，“自分の『学び』や『生活』を自分で舵取りする子どもの姿”を目指して，教育活動に取り組んでいます。

UDLに基づく授業改革は，2年前より取り組み始めましたが，自分の学びを自分で舵取りするためには，自分の生活も自分で考えて，よりよい方法を選択し行動する力を育む必要があります。

昨年度より授業改革に加えて「こすどっ子マインド」による生徒指導改革にも全校体制で取り組んでいます。自分の人生の主人公である児童自身が，学習でも生活でも，安全な失敗つきの経験を積み重ねながら，社会に必要な基礎力である「自立・協働・創造」の力を育みます。そして，児童と教職員が一緒になってつくる「誰もが行きたくなる小須戸小学校」を目指しています。

2 実践テーマ

<テーマ>

学ぶ楽しさを実感し，主体的に学び続ける児童の育成

—UDLに基づくICTを活用した「Teaching」から「Learning」への授業改革の推進—

テーマ設定の理由

児童が学ぶ楽しさを実感し，主体的で深い学びを可能にするためには，まず教師の在り方を含めた学習環境の整備が重要と考えました。すべての児童が，それぞれに合った方法で学ぶことができるよう，教師は，UDLに基づいた自己調整の仕方の指導や足場かけの支援などを提供することで，個々の児童の学びを深めたいと考えています。

3 実践内容

○「誰もが学べる教室」を目指した授業改革

- ・学びのユニバーサルデザイン（以下UDL）に基づく授業改革
- ・学ぶ意欲の喚起，メタ認知，自己調整，協同学習，ICTの活用
- ・児童の多様性に合わせた「多様な学び方」の提供

○「こすどっ子マインド」を行動指針にした全校体制による生徒指導改革

- ・望ましい行動への介入と支援（PBIS）
- ・「こすどっ子マインド」「尊重」「責任」「安全」を全校共通の基本指針として，全ての教職員で望ましい行動を具体的に教え，認め，強化。



4 成果と課題

【成果】

- 児童の学ぶ意欲が向上し，87%の児童が「自分で課題解決に向けて自分で考えて取り組んでいる」と肯定的に回答しています。（昨年度から5%向上）
- PBISに取り組んだことで，83%の児童が「自分で学習や生活を自分で舵取りできている」と肯定的に回答しています。（昨年度から10%向上）
- 教職員の87%が「授業では，バリアを予想して，それに対応する手立てを準備して臨むように心掛けている。」と肯定的に回答しています。

【課題】

- 「授業では，学習内容だけでなく，子ども自身が学び方について意識したり考えたりできるよう働き掛けている。」の項目において67%の教職員が肯定的に評価しています。自分の授業改善のために，UDLセルフチェックを有効に活用できるようさらに研鑽に努めていきます。